



みらいつうしん

10月号

2025年10月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子

秋の自然に触れて

「いつまで残暑が続くのだろう」と思っていました。ようやく秋風が心地よい季節となりました。朝晩と日中との寒暖差を感じますので、引き続き体調には十分お気を付け下さい。

さて、秋といえば、『食欲の秋』『読書の秋』『芸術の秋』『スポーツの秋』などと思いが浮かべると思いますが、散歩、遠足、お月見、ハロウィン等のイベントが目白押しで、たくさんの学びを吸収すると言われています。また秋は、味覚の秋ともいわれるように、梨、新米、サンマ、栗、さつまいも、柿など旬な美味しい食べ物がたくさん実りを迎えることから、食欲が増し体力もパワーアップすることができますね。みらいこども園の子ども達も、秋の風を身体いっぱいを感じ、園庭を駆け回り、笑い声と元気な姿を見せてくれています。2学期に入り友達同士の関わりが増えたことで、小さな「子ども社会」にも大きな変化が生まれ、遊びもかなり活発になっています。好きなことを見つけて喜んで遊んでいる子、1つの遊びに夢中になっている子、仲の良い友達と会話をしながら遊びを共有し工夫して楽しんでいる子、お兄さんお姉さんの姿に憧れて、一生懸命挑戦する子など、十人十色ではありますが、たくさんの場面でより成長している姿が感じとれます。特に今の時期は、園庭の石や木の実、葉っぱ、虫などを探して、友達と共有したり、競争したり、ものに対して興味関心が強化され、探求する楽しさを、子ども達の視点で膨らませています。これこそが「学びに向かう力」の基礎につながると、私たち保育者は子ども達の楽しそうな表情や姿から実感しています。

9月21日(日)も、DCUの仙田先生が代表をされている「国際校庭園庭連合日本支部」主催の実践セミナーが、みらいこども園で開催され、全国の幼稚園、保育園の先生方が、60名ほど集まりました。テーマは「子どもの主体性を育む園庭の環境づくりとルースパーツ(素材)の導入・実践・可能性を考える」でした。こども園の園庭や保育室を実際見学していただき、本園の豊かな環境を実感していただきました。その後、専門家の先生に環境を作る素材についてお話をいただき、実りのある研修になりました。やはり環境は、子どもの発達に大いに影響すること、子どもが環境に触れることで五感が刺激され、いろいろなことに「やってみたい」「これなに?」「面白い」と心を揺り動かすことは、学びにつながることで改めて勉強させていただきました。何よりも、みらいこども園を、多くの先生方に知っていただいたことは本園の収穫と感じます。参加した本園の職員も、より一層の園庭緑化や子ども達の環境づくりに意欲を燃やしておりましたので、これからも子ども達の思いに寄り添いながら、学びにつながる豊かな環境をつくっていきたいと思います。



実践セミナーの箱庭体験



親子であそぼう☆ふれあいひろば(乳児)



親子であそぼう☆ふれあいデ이의種目について、やりたいことをグループごとにプレゼン中(にじ組)